

桜蔭俳話会 十月句会(第二九九回)

於鳴立庵(大磯) 平成二十三年十月二十三日

出句 五句、選句 五句(内特選一句)

3点① 一間の広縁一輪の時鳥草

守

2点② 藤村の愛でし閑居や小鳥来る

友子

2点 湘南と呼ばれし海や翺雲

幸

石拾ふこよろぎの浜秋さびし

友子

虎御前の像のやさしや石路の花

友子

広縁の古式の鍵やほととぎす

幸

波音の高き庵や木の実落つ

友子

1点① 水落ちて鳴立庵の秋深む

秀一

十月の点るトンネル少年来

守

1点 秋の海足跡踏みて戻りけり

守

十月の砂浜一句遣しけり

守

指欠きし如来石像新松子

秀一

水平線に船のつてをり秋の浜

秀一

秋寂びや風の出できし比翼塚

秀一

曼珠沙華華僑の奥津城海に向く

貞勝

吹き上ぐる秋風の木暗がり

守

立て膝の西行の像秋思あり

友子

● 情熱に影あり光る秋の水

眞三

足鎖鳴らして象に秋深し

貞勝

猷饌の玉糸ましる菊日和

貞勝

秋日和風にも西行偲ばるる

幸

大磯の松の素ぼくや秋盛り

眞三

落葉見ゆ音する沢の底にあり

眞三

秋高し靴鳴らし行く鳴立庵

幸

ながらへし齡をとめて丹波栗

貞勝

秋白き柵に可愛き人育つ

眞三

現役の赤きポストや牛膝

秀一

大銀杏散るや火伏せの朱の鳥居

貞勝

トンネルを抜け高校生石路の花

幸

釈迦像の気高き姿秋参る

眞三

不在投句

野上貞勝